

令和5年度

地域福祉事業配分金 事業報告

(令和4年度募金実績)

朝来市社会福祉協議会

【ほっとコミュニケーション事業】

合併時より継続していた誕生日をお祝いする主旨の事業内容を見直し、職員に訪問によって困りごとや課題を把握し、それに対する支援などを関係者と共に検討していく事業に変更した。

- 対象者 見守りが必要な高齢者独居・高齢者夫婦・障がい者世帯等
- 内 容 誕生月に地域センター職員が、民生委員と共に対象者を訪問。困りごとや課題を把握し、支援や情報提供を行った。すぐに対応が難しく、地域の方との検討が必要なケースでは民生委員や社協委員、ケアマネなどの関係者と調整会議を行い、可能な支援について協議した。

令和5年度地区別対象者人数

地区	生野	和田山	山東	朝来	合計
対象者数	153人	305人	144人	144人	746人
調整会議数	6回	8回	2回	2回	18回
随時支援数	29回	40回	9回	19回	97回

- 総事業費…3,152,000円 財源…共同募金配分金

●効果と課題

- ・訪問を機会として、大小様々な相談や質問をお受けすることが出来た。特に調整会議では対応について具体的な検討を行ったケースもあったり、会議をきっかけとして支援者同士が顔見知りになり連絡先を交換されるなど大きな効果を感じた。
- ・民生委員と連携して進めていくため、今まで無かった強い連帯感が生まれ、本事業以外にも色々なことの相談や情報が入るようになってきた。
- ・遠方のご家族が支援している場合、そのご家族と地域との関わりがないために地域も手が出しにくい状況を確認する。次年度は遠方の家族と地域を繋ぐ支援を行っていきたい。
- ・対象には難聴者も数人おられるがコミュニケーションが難しかった。補聴器・集音器等も使いながら対応をしていきたい。



調整会議の様子

【へき地配食】

令和5年3月末に配食サービス事業を廃止したことに伴い、後継の(有)但馬フーズラボ様に引き継いだ。現状の体制では配達に困難な地域があり、下記地域の配達については社協がへき地配食支援として配達のみを行った。

- 配達地域 朝日・藤和・山本・土肥・老波・佐中・平野・神子畑・八代・上八代・黒川
※現在は老波1名のみ
- 業務内容 業者が朝来地域センターに弁当を配達。それを社協職員が対象者宅にお弁当を持って配達する。土日祝と年末年始の配達はシルバー人材センターに委託している。
- 配達実績 年間延べ利用者数 5名 年間延べ配食数 432食
- 財 源 ほっとコミュニケーション事業財源から公用車リース料や燃料費、あおぞら委託料を拠出

●その他 10月より平日の配達業務のみあさごふれ愛の郷あおぞらに委託し、あおぞら職員と利用者が配達を行っている。

●成果と課題

へき地という採算が取りにくい地域の配達を担うことで社協らしさのある支援が出来ており喜ばれている。一方、人口の少ないへき地ということもあり新規利用者のニーズが少なく、利用者の増加はあまり見込まれないと思われる。

【地域応援助成事業】

●わがまち食堂助成事業（対象：区）

地域内での支えあい、助けあい体制づくりを推進し、わがまちで安心して暮らす地域をつくることを目的として事業を行った。

	選べるコース	助成上限額	内 容
一 年 度 内 3 回 ま で 一	①食堂コース	食堂事業1回につき、 60名以上 30,000円 40名以上 60名未満 25,000円 20名以上 40名未満 20,000円	地域で食堂事業を開催し、世代間交流の機会を増やすことにより、地域の支えあい・助けあいづくりを推進していくことを目的としたコース
	②食堂と福祉マップづくりコース	①コースの助成額に プラス 10,000円	①に加え、福祉マップを作成し、区内で情報を共有するコース（このコースは、複数回の助成不可）
	③地区合同開催コース	①コースの助成額に プラス 20,000円	隣接区が合同で食堂事業を開催するコース

○実施区一覧表

申請区	実施回数	助成額
和田山町西土田区	2回	40,000円
和田山町栄町区	2回	55,000円
和田山町新町区	1回	30,000円
和田山町竹田新町区	1回	30,000円
山東町早田区	3回	65,000円
山東町田中区	3回	60,000円
山東町金浦区	1回	20,000円
平野区（朝来）	2回	50,000円
新井1区	1回	20,000円
納座区	1回	20,000円
合 計	17回	390,000円

○成果（地域応援助成事業報告書より抜粋）

- ・新型コロナウイルス感染症の流行による行動制限で、地域住民の世代間交流が疎になっている中、市民の皆様が協力された共同募金の分配金による助成金をいただけたことで、世代間交流や地域内で支えあい、助けあう機運を高め、安心して暮らす事のできる区づくりの一助となった。
- ・孤食から会食による食事の楽しさを改めて知ることができた。また、仲間の顔を見て話すことによりお互いの安否等が確認でき安心した。自分も頑張ろうという意欲が醸成できた。
- ・来たくても来れない人への配食については、安否及び健康状況が確認できたこと、及び当該者はその仲間であることの再確認とみんなから離れていない安心感が確認できた。
- ・子供達から高齢者まで一緒にイベントをする事により接点が始まり自主的に思いやり、お手伝い、お助けする気持ちでより優しい区作りにつながった。

○課題・今後の取り組み

- ・区の中で反対意見が出たため、申請を取り消された区があった。
- ・新型コロナウイルスの5類移行による行動制限が緩和されたことにより、地域でのイベント等の実施が徐々に再開されている一方で、心配や不安を感じている方もおられることを忘れてはならないと感じた。
- ・本事業の周知と目的の理解をすすめていき、新規実施区を増やすことが、重要である。

●お出かけ助成事業（対象：ミニデイ・ぷちサロン）

生きがいつくりや介護予防活動として交流を楽しむ団体に、外出行事に使用するマイクロバス等の使用料金の負担を軽減するために助成した。また、普段交流が少ない一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦等の社会参加を促進するために下記メニューのとおり追加助成した。

助成メニュー

助成額上限	30,000円
助成回数	年度内1グループ3回まで
追加助成	普段交流が少ない高齢者等の参加により、1名するごとにプラス3,000円を追加助成（最大追加助成5名まで）

○実施団体一覧表

申請団体		実施回数	助成額
ぷちサロン	土肥区ぷちサロン	1回	39,500円
ぷちサロン	ささゆり	1回	36,000円
ぷちサロン	高田ときわ会	2回	78,000円
地域	ふれあい交流会「団らん」	2回	63,700円
ミニデイ	どんぐり会	1回	30,000円
ミニデイ	山内ふれあいサロン	1回	31,500円
ミニデイ	秋葉台3区ボランティアグループ	1回	20,000円

ミニデイ	竹田上町区たのしみ会	1回	42,000円
ミニデイ	おしゃべり café ひまわり	1回	15,100円
ミニデイ	三保二葉会	1回	45,000円
ミニデイ	新町なごみの会	1回	39,000円
合計		13回	439,800円

○成果（お出かけ助成事業報告書より抜粋）

- ・次年度は、会の発足 25 周年になる。元気でお出かけできるよう楽しみにしている。
- ・バス乗車中、工場見学、お買い物、食事中と人とおしゃべりが出来、楽しく過ごせた。
- ・一人暮らしの方で普段外出をして、交流する機会がない方も誘って、観光や買い物、外食を楽しむことができた。

○課題・今後の取り組み

- ・普段交流が少ない高齢者が、グループで誘い合って、助け合い支え合うことで、外出を楽しんでもらい、それが生きがいや介護予防へとつながることが目的である。申請グループのほとんどが、普段交流が少ない高齢者を誘ってお出かけをされており、本事業の目的と効果が期待できる。
- ・遠い近いに関わらず、つどいの場のグループに合ったお出かけを企画され、本事業の利用をしていただきやすくするために、実施グループ活動例の紹介や、事業内容の周知を行っていく。

【生活困窮者支援】

生活に困窮した世帯等からの困窮相談を受け、各関係機関との連携を通じた支援や必要な資金貸付、善意銀行での金銭預託や物品預託により対象世帯等へ食糧や物資を提供した。

○食糧支援等実績

地域別	件数	内 容
生 野	5	(食糧) 米、インスタント食品、飲料他 (日用品) 洗剤、カセットボンベ (その他) 毛布、カセットコンロ、飯盒炊飯
和田山	1	
山 東	4	
朝 来	8	
計	18	

○法外援護支援資金・生活福祉資金への資金貸付

地域別	件数	ケース内容
生 野	1	緊急小口資金にて年金支給開始までの生活費つなぎ資金
山 東	1	法外援護支援資金にて就職支度準備金
朝 来	1	法外援護支援資金にて就職支度準備金
計	3	

○関係機関等の連携

関係機関名	主な対象世帯
市社会福祉課	母子世帯
市ふくし相談支援課	母子世帯、高齢困窮世帯
高齢者相談センター	高齢夫婦世帯、独居高齢世帯
介護保険事業所	母子世帯、高齢独居世帯

【広報・ホームページ】

①広報誌「社協だよりあさご」の発行

年6回発行し、市内全戸・関係機関等に配布。令和5年度は社協の事業に併せて、市内での地域の取り組み事例や実施報告等を多く掲載することで、実際に起こっている事象を啓発し、本会事業や地域福祉への理解を深めていただけるよう努めた。

②「社協だよりあさご」に関するアンケートの実施

社協委員、ボランティアグループ代表者、地域応援助成事業の申請区を対象に、広報誌発行後、感想やご意見を聞くためにアンケートを実施した。

<感想やご意見の一部>

・様々な助成事業がありますが、難しい言葉や格式ばった言い回しではなく、高齢者にも分かりやすく紹介してほしい。

・紙ベースでは、若者には受け入れてもらえません。X（旧 Titter）や TikTok などの SNS での発信と更新が必要。

アンケートの回答を基に、見直しや改善を図り、より良いものができるよう取り組みをした。

③「つながる・ひろがるボランティア」チラシの発行

朝来市ボランティア市民活動センター運営委員会で決定したボランティア活動の啓蒙活動として広報誌に折り込みチラシを入れることになった。

チラシを見た市民からボランティア登録の申請があった。



④ホームページ

ホームページに掲載する情報を整理して、ワンクリック、ツークリックで必要な情報に届くようにリニューアルした。

オンライン申請でぷちサロン・ふれあい講師の申請や報告が多くなり、ホームページを活用いただいていることが分かる。

ブログ等の掲載頻度を上げて情報の発信に努めていきたい。

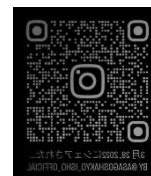
⑤「ミニデイ・ぷちサロン交流掲示板」グループLINEの運用

このLINEの活用は、グループ同士の情報交換の一助になっている。また、LINEを通じて、社協に写真データを送信していただくことで報告書の簡素化にもつながった。今後は、助成団体の助成情報等の有益な情報発信も行い、グループ数の増加につなげていきたい。

（18名のボランティア代表者が登録）

⑥インスタグラムの活用

貸衣裳に関する情報を随時発信し、市民の方が便利で気軽に借りられるよう努めた。右記のQRコードよりインスタグラムを閲覧可。



【福祉教育活動助成事業】

赤い羽根共同募金の配分事業として、助成事業の案内や申請校への助成金交付等の事務を通して福祉教育活動の推進を図った。また福祉学習の講師派遣を行い「ふだんの暮らし」の中にどのような福祉的課題があるかを学び、考え行動するきっかけづくりを行った。

要綱改正を行い、学校、子ども園・保育園へ事業説明を行う等して周知を行い、福祉教育活動に取り組む学校を増やすようはたらきかけた。

改正内容

- ・事業の対象を市内の各学校から、市内の各学校、こども園・保育園に拡大。
- ・活動内容の活動コースをシンプルにし、様々な活動に取り組みやすくした。
- ・福祉教育活動限定だった経費を福祉及びその他の教育に関わる経費に充当可能とした。

〈実績〉

	令和5年度	令和4年度
申請校・園	12校・3園	11校
助成額	524,979円	177,941円
主な取り組み活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉施設との交流 ・地域の高齢者との交流 ・外部講師を招いて手話・車いす・高齢者疑似体験等の福祉体験を行う ・共同募金学習と街頭募金への参加 ・プルタブ・古切手等の収集活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほっとコミュニケーション事業への参画 ・車いす・手話・点字・疑似体験等の福祉体験学習 ・プルタブ収集活動 ・共同募金学習 ・フードドライブ協力
講師派遣回数	8回 和田山高等学校（車いす・アイマスク・松葉杖体験、フードドライブ学習） 梁瀬中学校（車いす体験） 大蔵小学校（車いす・高齢者疑似体験） 梁瀬小学校（車いす・高齢者疑似体験） 枚田小学校（車いす体験） 糸井こども園（車いす体験）	6回 和田山高等学校（車いす体験・フードドライブ協力） 梁瀬中学校（車いす体験） 山口小学校（高齢者疑似体験） 梁瀬小学校（車いす体験） 東河小学校（車いす体験）

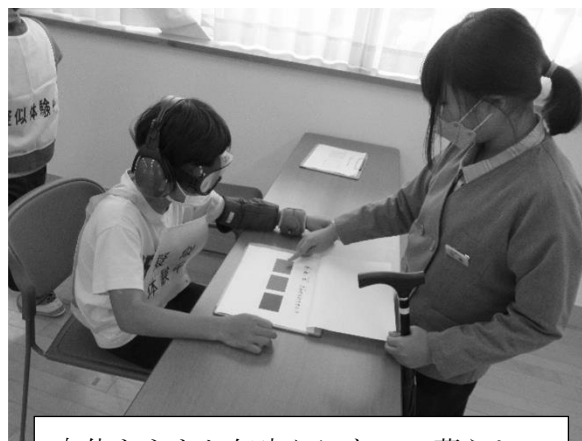
〈成果〉

・こども園・保育園から申請があり、福祉教育や赤い羽根共同募金の意義や理解を広めることができた。

- ・ 取り組み活動の幅が広がり、さまざまな活動へ助成することができた。
- ・ 多くの経費がかからない活動も申請ができるようになったとともに、経費への書類や返金等の対応がなくなり、事務手続きがスムーズに流れるようになった。



車いすに乗ったり押したりを体験
(糸井こども園)



身体も心もお年寄りになって暮らしの中
の課題を体験 (大蔵小学校)